

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	Academic English for the Second Year I		
英文授業科目名	Academic English for the Second Year I		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 知能機械工学科		
担当教官名	酒井 邦秀		
居室	東1-716		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sakaikunihide@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>目と耳から大量の英語を吸収（多読・多聴）し、それを話す、書く、特に書くに利用できることをめざします。</p> <p>はじめは個別指導により多読・多聴してもらいますが、本や音声素材が自分に合っているかどうか及び内容について批判的に評価し、自立して本や音声素材を選び、それについて自分の意見を述べられるようになることをめざします。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
1年次の英語科目

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
ありません。

【教科書等】
<p>全員が一斉に読む「教科書等」はありません。5千冊を越える多読用図書、200種類を越えるCD、100種類を越えるDVDを利用し、一人一人が違う道をたどって英語を使えるようになることをめざします。そのため毎年相当数の多読用図書が本棚に戻ってきません。それらの紛失を補充し、新たな素材を共同購入するために半期につき一人あたり、2000円を集めます。</p> <p>なお、この授業の参考書としては 「どうして英語が使えない？ 学校英語につける薬」酒井邦秀、ちくま学芸文庫 「快読100万語！ ペーパーバックへの道」 酒井邦秀、ちくま学芸文庫</p>

「教室で読む英語100万語」
があります。

酒井邦秀、神田みなみ、大修館書店

【授業内容とその進め方】

大学入学までの英語学習は忘れてください。
ゼロから出発して、個別指導のもと、文字のない絵本やセリフのほとんどないDVDなどを使い、きわめてやさしい英語を大量に吸収してもらいます。

* 読む・聴く

多読・多聴については三原則を利用します。すなわち

* 一々の語にこだわらない。

* わからないところは無視する。

* 自分に合わなかったらどんどん投げ出す。

を忠実に実行してもらいます。

* 話す・書く

はじめは日本語で個別指導をしますが、前後期と続けて履修することを前提として、家で多読・多聴が習慣になった人から順番に英語で個別指導をしていきます。個別指導に対するみなさんの返答は最初のうちは英語でも日本語でもどちらでもよいでしょう。徐々に英語にしていってください。1年間の終わりに全員が英語で受け答えするようになればよいとします。なお、6月以降は家で読み・聞く習慣のできた人から順に英語で感想文を書いて提出してもらい、一人一人の進度によって徐々に長さや構成を考えた学術的な英文を書けるように指導します。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席と試験で成績を出します。

出席は3分の2以上。試験は数百語程度の英文を書いてもらいます。少なくともmoderate writerすなわち英語で表現できるところは英語で、表現できないところは日本語で書けることが必要です。

【オフィスアワー：授業相談】

課題の本やCDが終わったら研究室前の本棚に本を取り替えに来てください。

その際に研究室の戸を叩いて、様子を聞かせてください。

水曜日の午後から6限の終わりまでがいちばんつかまりやすいはずですが。

そのほかの時間は会議、授業の準備などで研究室にいないことがあります。

事前に連絡をください。

【学生へのメッセージ】

この授業をいちばん受けてほしい学生は「英語も英語の授業も大嫌いだ、しかし楽な方法があれば英語は身に付けたい」と考えている人たちです。

ただ単位ほしさだけで来てもかまいません。辞書、文法書、問題集、入学までの英語と英語に関する記憶は捨ててください。捨てられればかならず英語と新たな関係を作れます。

【その他】

英語を勉強と考えずに、楽しむものと考えを変えてください。